

FUKUUCHI

Public
Relations

No.195
March

広報ふくち



15年の時を超え

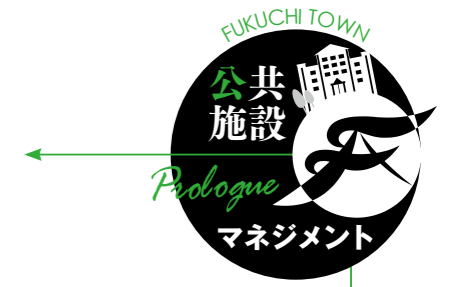
合併当初から公共施設の多さが指摘され、平成19年の「福智町行財政改革大綱」で答申を受けた福智町。それら多くの建物が老朽化し、町財政にも大きな影響を与えています。更新が廃止かの岐路に立っている今、愛する町を未来へとつないでいくため、福智町は大きな行財政改革に踏み切ろうとしています。



福智町公共施設マネジメント

2022

3



【町民の皆様へ】コロナ禍で説明会が開けませんがご理解をお願いします

まちの持続的発展に向けて

旧3町の重複する類似施設が合併当初から指摘され、長年その解決に取り組みられてきた公共施設の統廃合。行革答申後15年が経過する今、先送りできない岐路に立っています。これまで成し遂げることができなかった喫緊の最重要課題の解決を目指します。

行革推進委員会条例を制定

平成18年6月、社会の変化に対応した簡素で効率的な町政の実現を目的とした「福智町行財政改革推進委員会条例」を町議会決議を経て制定。



行革推進委員会が答申

平成19年2月、8か月に渡る18回の会議を経て「行財政改革推進委員会」が計画大綱を答申。



公共施設の統廃合を検討

答申を受け「行財政改革推進本部」と「公共建物及び施設検討委員会」を設置して検討。



タウンミーティングで説明

平成19年5月、「タウンミーティング（まちづくり懇談会）」を開催し、公共施設の統廃合について各地区で説明。



以降のタウンミーティングでも公共施設の統廃合について説明を継続。

第一次総合計画で主要施策化

平成19年9月、「第一次福智町総合計画」で公共施設の統廃合や行政のスリム化等を主要施策として位置づけ。「第二次福智町総合計画」でも内容を継承。



町

民の皆様におかれましては、平素より町政運営にご理解を賜り厚く御礼申し上げます。また、引き続き感染症拡大防止にご協力を賜り心より感謝申し上げますとともに、感染リスクに直面しながら日々奮闘されている現場の皆様へ深く敬意を表します。

さて、福智町は3月6日で合併後17年目を迎えます。これまで先人たちの確固たる意志のもと、福智町は前進を遂げて参りました。しかしながら、少子高齢化や人口減少、公共施設の老朽化が加速する中、今後、福智町の持続的な発展をいかに果たしていくか、今まさに正念場と言わざるを得ません。今こそ、まちづくりを抜本的に支える構造改革を果たさなければならぬ岐路に立っていると、深く認識しています。

福智町発足当初の年には、今後の町の在り方について、有識者や町民の皆様を中心とした福智町行財政改革推進委員会による「福智町行財政計画大綱」が策定され、答申がなされました。その内容は、この町の将来と展望を見据えた、合併に伴う様々な課題の指摘を受けたものとなっております。その答申を受け、議員数は46人から18人に、また職員数は362人から230人へと縮減してきました。

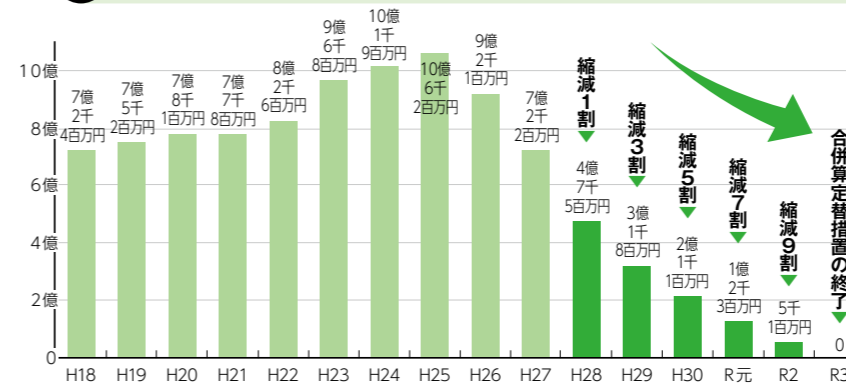
一方、公共施設については「20万人規模の自治体に匹敵する公共施設を抱えており、能率的・効果的活用の促進や整理統廃合を大胆に行い、支出されている費用が活かされるような対応策を急ぐべきである」と答申で指摘されておりました。これを受け、タウンミーティングを実施し、町民の皆様へ直接、公共施設の統廃合についても説明がなされていますが、実施までには至りませんでした。

そのような中、医療費等の社会福祉費の自然増をはじめ、多種多様な課題が年々増加しており、これらに対し、現体制で対応していくには、もはや限界を向かえつつあります。このため、住民サービスの体制確保及び維持向上に向け、令和3年度末で支所を廃止し、本庁舎を増築して職員を集約する方針を、私が就任した3年前に決定したところであります。その財源に令和7年度までと期限が迫る合併特例債を主に活用することで、町負担の最小化を図ります。教育施設につきましても本年度、有識者や町民の皆様へ検討いただき、老朽化が進む赤池中央公民館及び方城分館を整理統合する方針といたしました。その財源に期限延長を迎えた過疎対策事業債等を活用し、町負担の最小化を図ります。

本来であれば、このような重大事項につきましても、町民の皆様へ直接ご説明を申し上げるべき所ではありますが、昨年から続くコロナ禍において、現在でもオミクロン株の感染拡大が続き、県内のまん延防止措置が延長される中、説明会の開催は断念せざるを得ない状況となっております。町民の皆様におかれましては、まちの将来のため、避けることができない喫緊の課題である公共施設の統廃合につきましても、また、それらを実施するための財源確保やカバーすべき行政サービスの取り組みの状況につきましてもぜひ共有いただき、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

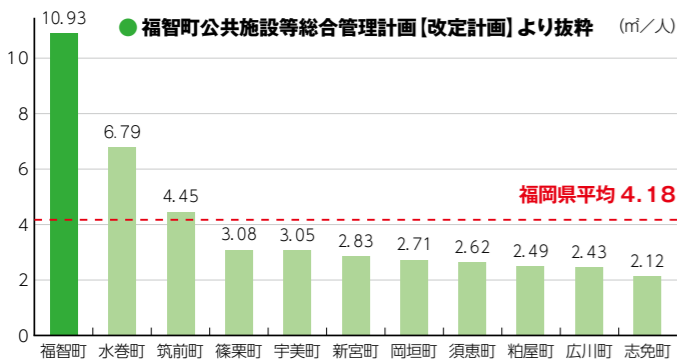
福智町長 黒土孝司

国からの普通交付税の合併算定替効果の推移



旧3町が合併した福智町は、普通交付税の算定時に通常の算定額と合併前の市町村で算定した合計額との差額分を上乘せして分配する合併算定替効果として、現在まで合計97億円もの恩恵を受けてきました。しかし、合併特例措置は15年で終了したため、合併して16年目を迎えた昨年度から以前まで多く分配されてきた財源が確保できていない状況となっています。

福智町が保有する公共施設の概要と類似する市町村との比較



福智町は現在、延床面積の合計が29万3825㎡の329の公共施設を保有しており、これらを類型別に比較すると、公営住宅41.7%、学校教育系施設20.2%、町民文化系施設11.2%、スポーツ・レクリエーション系施設6.5%の順に多く保有することになります。また、町民一人当たりの公共施設延床面積は、総務省の「令和元年度公共施設状況調査」によると、福智町は10.93㎡で福岡県平均4.18㎡の倍以上になっており、類似する自治体と比べても突出して高い状況であることがわかります。要因としては、合併に伴い同じ機能をもつ公共施設が重複したことや、施設の規模・配置が人口の変化に即していないことなどが考えられます。

4 新施設の建設場所

前 項③を満たすためには、相当な敷地面積が必要であり、既存施設と併設することで新施設の規模縮小と経費削減が実現できます。その条件に最も当てはまることから、地域交流センターに隣接する方城分館周辺を新施設の建設候補地とすることを求めます。

5 公共交通の充実と既存施設の解放

建 設候補地の方城分館周辺は車以外での来場が難しいと予測されるため、福祉バスなど公共交通機関の一層の充実を求めます。また地区の集会所をはじめとする既存施設をさらに開放し、地域活動・学習の場を提供するよう求めます。



6 適切な跡地利用

跡 地は、多くの住民の理解が得られる活用ができるよう、慎重に審議するよう求めます。また、金田分館は、隣保館機能を併せもつ複合施設であり、耐用年数もまだ残っていることから、すぐに解体するのではなく、活用しながら移転などを慎重に検討していただくよう願います。

1 統廃合の対象とする施設

耐 用年数が少なく、安全面や維持管理費用の面で課題のある下記の6施設から優先的に統廃合を進めるよう求めます。

- ▶ 中央公民館(残寿命 2年) ※以下「残」と省略
- ▶ 金田分館(残 11年) / ▶ 方城分館(残 1年)
- ▶ 方城体育館(残 3年) / ▶ 金田体育館(残 9年)
- ▶ 赤池体育センター(残 9年)

2 新施設の機能と建設方法

対 象となる多くの施設の耐用年数が目前に迫る中、改修ではなく新築することが望ましい。また、新施設は幅広い用途で使用できる施設であり「教育の拠点」と呼べる施設であるために、公民館と体育館の機能を併せもつ複合施設として同一敷地内に建設することを求めます。

3 利用者の活動の確保

日 常的に公民館・体育館を利用する団体が新施設で活動を継続できるよう対応すると共に、全活動を継続できる規模の施設を建設することが望ましい。また建設中も活動を中断しないよう、新施設が完成し機能の移行が完全に終わった後に既存施設を解体するよう求めます。



社会教育施設の統廃合

「町社会教育等統廃合検討委員会」が今後見直す意見書提出

公民館・体育館をはじめとする施設の今後のあり方を検討するため、社会教育に関わりの深い委員10人で組織された「福智町社会教育施設等統廃合検討委員会」が、昨年7月から議論を重ねた意見書を黒土町長へ提出しました。ここで委員会が届けた6つの意見書の声をご紹介します。

「社会教育委員の会」委員長であり、統廃合検討委員会の委員長も務めた徳久公博さんが、12月22日に黒土孝司町長へ意見書を手渡しました。



「赤池・方城支所」廃止へ

郵便局やコンビニ交付の環境整備支所を廃止して本庁に一本化

「福智町行財政改革大綱」答申から15年の時を超え、実施される赤池・方城支所の廃止。福智町はただ無くすのではなく、住民の皆さまにとって利便性の高い行政サービスの提供を目指しています。

公共施設の適正化と行政サービスの質向上を目指す
福智町誕生後16年間、赤池方城支所の運営が続けてきましたが、施設の老朽化が進み多額の維持管理費用がかかることから令和4年3月末をもって両支所を廃止することを決断しました。町はこれまで赤池・方城支所の廃止を見据え、その後も利便性の高い行政サービスが提供できるように、日本郵便やコンビニエンスストアと連携し、各種証明書の交付や福智町の税金などの納付ができる環境を整えてきました。今後は、金田本庁舎のご利用のほか、時間や場所の制限にとらわれない郵便局交付とコンビニ交付・納付もぜひご活用ください。よろしくお願いいたします。

町内の3郵便局で各種証明書が取得可能に



上 記3郵便局では、運転免許証やマイナンバーカードなどの本人確認書類と発行手数料があれば、住民票/印鑑証明書/今年4月からは戸籍謄本・抄本(原戸籍を除く)の交付が受けられます。なお、同一世帯内であればご家族の住民票も取得できます。



全国のコンビニでいつでも、どこでも納付・交付できます!

店 頭に「公共料金収納取扱窓口」の表示があるコンビニエンスストア(町内のコンビニは全て対応)では、時間や場所を問わず、福智町の税金などを手数料無料で納付することができます。コンビニ納付対象外の使用料などもありますので、ご注意ください。



コンビニ交付・納付に関する詳しい情報は福智町のホームページでご確認ください▶



キオスク端末を自分で操作して手軽に交付!

マ イナンバーカードさえあれば昼夜・休日・場所を問わず、コンビニのキオスク端末(マルチコピー機)で、福智町の住民票や戸籍などの各種証明書が簡単に取得できます。手数料も役場で取得するより100円安くてお得。郵便局交付と合わせてご活用ください。



は休診日

受付時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
	午前 8:30~11:30		村田	村田	村田	金 村田 ^{※1}	村田	村田 ^{※2}
午後 13:30~16:30		村田	村田	村田	金	村田		

※1: 第1・3・5木曜日は午前中のみ(他は休診) / ※2: 第2・4土曜日診察



村田 篤彦 副所長

受付時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
	午前 8:30~11:30		浅野		浅野		浅野	浅野
午後 13:30~16:30		浅野		浅野		浅野		

※ 令和3年度までの診療時間と異なっていますのでご注意ください



浅野 茂利 医師

受付時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
	午前 8:30~11:30		小川	小川	小川 ^{※1}	小川	小川	小川 ^{※2}
午後 13:30~16:30		小川	小川 (予防接種)		予防接種 のみ	小川		

※1: 第2・4水曜日は午前中のみ(他は休診) / ※2: 第1・3・5土曜日診察



小川 雅克 所長

保健センターも一本化へ

施設の老朽化で安全な維持管理が難しくなったことを契機に、長年の課題であった保健センターの一本化を進めるため、方城保健センターを廃止し、その機能と子育て支援センターを金田保健センターへ移転しました。なお、コスモス保健センターについても今後廃止し、金田保健センターへ統合する方針で検討を進めています。それに伴い、来年度からコスモス保健センターの一部事業を金田保健センターに移管して実施します。詳細は、町公式HPをご確認ください。

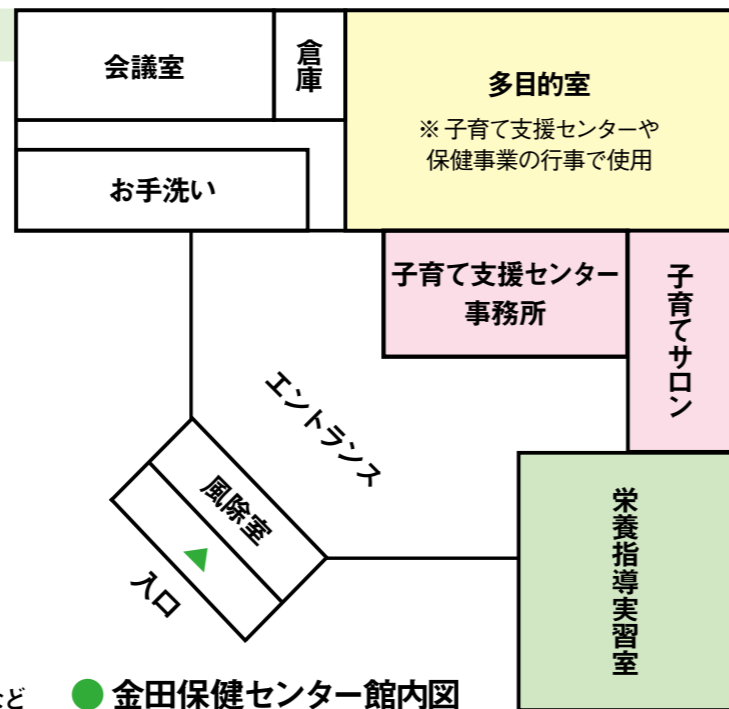


金田保健センターに移管する保健事業

▶ 健康診断、乳幼児健康診査、もぐもぐ教室など

コスモス保健センターで実施する保健事業

▶ 新型コロナワクチン接種、各種健康相談、母子手帳交付など



● 金田保健センター館内図



コスモス診療所は

民間の医療法人へ売却予定



↑ 多額の維持管理費がかかるため、今月末で廃止となるコスモス診療所。福智町は、今後も高齢者人口が増加する将来を見据え、高齢者の皆様を対象とした医療法人の公募を進めて参ります。

診療所統合で経営立て直し 4月から新体制で再出発

これまで福智町は、地域医療を守るべく、コスモス診療所と方城診療所の運営を継続しながら人件費や維持経費の削減など経営改善を図ってきました。しかしながら、これまでに一般会計からの助成金や赤字補填額が両診療所で約15億を超えており、今後の町財政をさらに圧迫することが予測されます。そのため、コスモス診療所を利用者の多い方城診療所へ統合し、両診療所を一本化することで持続可能な地域医療を確保する苦渋の決断を行いました。

方城診療所は現在、今年4月からの運営に向け、診療室や待合



↑ 院外処方に変更した方城診療所は、その運営を現在コスモス診療所の院外薬局を開設する(株)マーキュリーに委託。4月から敷地内の院外薬局で処方を開始します。

室の拡張など、利用者の皆様が快適に受診できる診療空間の実現に向けて整備を進めています。今後も、町民の皆様へ安心・安全な医療提供を継続するため、両診療所を統合する行財政改革に対し、ご理解とご協力をお願いいたします。

町立診療所を一本化へ

地域医療と町財政を守りながら町立診療所の赤字額縮減目指す

福智町の地域医療を守ってきたコスモス診療所と方城診療所の運営費が町財政を圧迫しています。引き続き安定した医療提供を続けるため、今年4月からコスモス診療所を方城診療所に統合した新しい診療体制での運営を開始します。



先送りできない岐路に立つ福智町、現状に即した行財政改革に挑む

行財政改革で町を未来へ

公共施設の統廃合を進める中で特に重要な公共交通の再編も同時に取り組む福智町。単なる行政規模の縮小に終わらせないよう「削る、残す、創る」の三拍子そろった行財政改革で、現状に見合うまちづくりへの転換を目指して参ります。

行政サービスの持続担う
公共交通の再編を目指す

行財政改革の一環として福智町は、公共施設の統廃合によってさらに需要が高まると考えられる町内の公共交通の再編に取り組んでいます。人工知能(AI)を導入する検討もなされるこの再編。利用者、事業者、行政の現状と課題を踏まえ、効率化・合理化した公共交通が実現できるよう、今後も取り組みが進められる予定です。この再編にかかる経費の財政負担を最小限に抑えるため、国の「デジタル田園都市国家構想推進交付金」を活用した推進を目指しています。



→人工知能を活用した公共交通システムの先進事例を共有する委員会、行政や交通事業者など、多分野との合意形成を図りながら再編を目指しています。

避けられない人口の減少
町の現状に見合う転換へ

炭鉱最盛期には4万人超えの人口も今では半減し、今後も減少が続くと予測される福智町。しかしながら、合併当時から指摘されている20万人都市並みの公共施設の整理は未だ進んでいません。これらの多くが更新時期を迎える今、私たちは現状を受け止め、それに見合った行財政へと転換すべき時が訪れています。これらを進めるには、施設や事業の廃止を避けて通ることはできません。しかし、単なる行財政規模の縮小で終わらせないために、町の現状を分析しながら「削る、残す、創る」を同時並行で進めていく行財政改革を実現していく必要があります。

大きな分岐点に立たされている福智町。改革の変化に不安や不便を感じるかもしれません。しかし、今変わらなければ将来に大きな影響を与えることも確実です。コロナ禍で住民の皆様にご説明できる機会をもてませんが、福智町は将来のため、全力で行財政改革に取り組んで参りますので、皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

将来人口推計から見る福智町の「これまで」と「これから」

